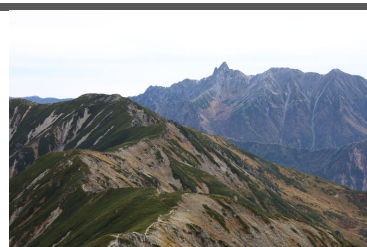


日本百名山 登山日記

歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です



vol.33 利尻山(日本百名山 41/100)

最北の百名山である利尻山（標高 1,791m）は、山口県より直線距離で約1,500km、北海道稚内市より西南西へ約40kmに位置する離島で、その北にある礼文島も含めハイカーや登山者に大変人気の場所となっています。

また、ロシアのサハリン島（樺太）最南端のクリリオン岬（西能登呂岬）までは約100kmと、まさに国境を望むことが出来る唯一の百名山と言えます。

さて、島にある百名山と言え、洋上アルプスと言われる屋久島の宮之浦岳が真っ先に上げられると思います。島の日本百名山はこの二座しかありませんが、これらは日本の南北にあるというだけでなく、その生い立ちや地形も対極に位置しています。屋久島の宮之浦岳は、花崗岩からなり洋上アルプスと言われるように、複数の山々から構成されているのに対し、利尻山は島全体が一つの山を形成し、火山の噴火により海際まですそ野を拡げているのです。

円錐の独立峰である利尻山は利尻富士とも言われ非常に美しく、登山者の憧れの山であり、私自身もずっと行ってみたい山でした。

また、利尻島は観光地としても秀逸で、最果ての地の気分を存分に味わえるほか、海の幸を中心とした食事も非常に美味しく、時間や費用が許すなら何度でも訪れたいような場所です。



旅の起点となる鰯泊港から見る利尻山

さて、利尻山への登山ですが、当然ながら北海道の離島なので飛行機と船に頼らざるを得ません。という事で、今回の遠征は山に登るというより、移動や宿泊を考えることに労力を遣う登山となりました。利尻島への往路は、福岡空港から新千歳空港に飛び、新千歳空港から利尻空港となります。乗り継ぎの時間も短かったことから、なんと14時前には利尻島へ到着、普段の車によるアルプス遠征よりも早くて快適でした。復路は鷲泊港からフェリーで稚内港へ、そこからバスに乗り稚内空港に向かいます。稚内空港からは新千歳空港を経由し、福岡空港となります。利尻空港は便数が少ないため、帰りはさすがに丸一日を要しましたが、日本最北の地でも1日あれば到着できるのは感動的でした。



ヤママップ地図より転記

では、今回の遠征について報告します。

13時50分に利尻空港に到着した後、宿の送迎バスに乗り約20分で旅館に到着。チェックインを済ませ部屋に荷物を置き着替えた後、すぐに近くの高台であるペン岬に登りに行きました。天候はイマイチの曇り空でしたが、ここを登っただけでも最北の地を存分に味わえた素晴らしい場所でした。

さて、軽いウォーミングアップの後はセイコーマート（北海道のコンビニチェーン）に翌日の登山の飲み物等を買出しに行き、風呂に入った後、宿の晩ご飯に舌鼓を打ちます。なんとも贅沢な海の幸がテイクアウトであり、普段の車中泊でのコンビニ弁当とは違って、自分にとっては贅沢すぎる時間でした。翌朝は4時前に起床し、朝ご飯として宿から用意して頂いたお弁当を食べます。毎度のことながら、朝から大きなおにぎりを頬張るのは苦痛ですが、これも登山と割り切って強引に詰め込んでいきます。利尻山の登山口までは宿の車で送迎してもらえますが、準備が出来たならいつでも出発してもらえるとのことでしたので、予定の5時よりも少し前に宿を出ることが出来ました。



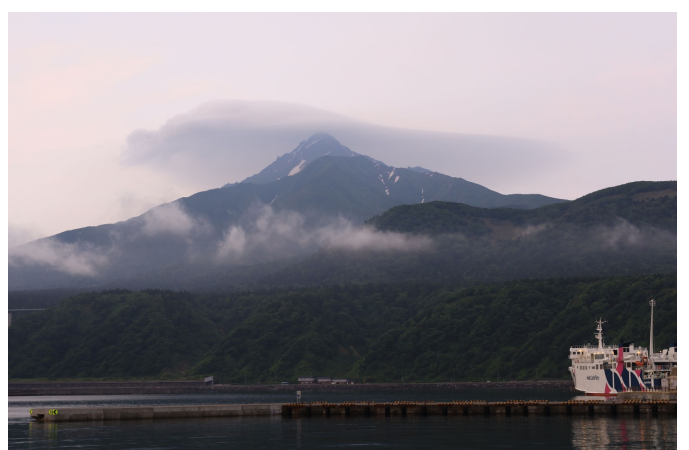
宿のすぐ側にあるペシ岬



鵜泊港が一望、この日の利尻山はガスの中



コンビニへ買い出しに



翌朝の利尻山、北海道の朝は早い(AM4:10)



登山データ：距離 16.1km(ロード含む) 累積標高上り 1,568m 登山区分 日帰り (ヤママップのデータを転記)

登山口のある利尻北麓野営場までは約3.5kmと近く、到着後準備して5時10分にスタート。他の登山客も各宿から送迎されており、賑やかな雰囲気気持ちが高ぶってきます。

しかしながら、本日の天候は曇りのち晴れ予報でしたが、何やら雲行きが非常に怪しい。こうなると、さすがに厳しい登山を予想せざるを得ません。天候の急変は覚悟の上でしたが、せっかくの最果ての地での登山、出来れば良い天気で登りたい、心からそう思いながらスタートしました。



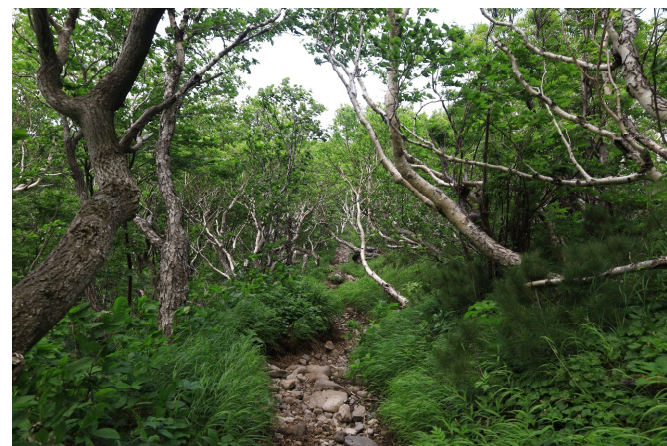
登山口の野営場



最初はハイキングコースをのんびり進む



ハイキングコースに別れを告げ本格的な登山道へ



植物はわからないが、地元の山とは確かに違う

しかしながらそんな願いも虚しく、登山開始約1時間20分、6合目付近から北西の強風と共に一気に天候が悪化、叩きつける雨（雹も混じっていたような）の中、雨具を着て登山を再開しましたが、徐々に気温も下がり手がかじかんできます。この時点で、テンションはだだ下がりでしたが、そうも言っていないので、とりあえず山頂直下にある避難小屋を目指す事にしました。



雲行きがかなり怪しくなってきた、ヤバイ



山頂はこの写真で見える地点のさらに奥

雨に打たれながらも避難小屋に無事到着。小屋には先行していた数名の登山者がおり、皆、天候回復を期待して避難していました。ここで、しばしの休憩タイムとします。普段はこのような停滞はしません。が、天候がこれでは致し方なし。食事でエネルギー補給しながら、他の登山者との登山談義に花が咲きます。これはこれで楽しいのですが、約30分を経過してもまったく回復しそうにないので、彼らを残し先に山頂を目指す事にしました。

9合目付近からは、更に風は激しくなり、場所によっては進行方向に向く事さえできず、身体ごと持っていられるような状況で、また登頂を諦めて下山する人ともすれ違いましたが、やせ尾根などの危険箇所には最大限の注意を払いながら登り、9時45分、無事に利尻山の山頂に到着することが出来ました。山頂はガスガスの真白。いく分風が弱まっていたので15分程度粘ってみました。が、天候は回復しなかった。ので、残念ですが低体温症の危険性もあるので下山する事としました。



崖方向からの風で良かった、逆方向なら滑落の恐怖



山頂は近いが、強風で前に進むことも困難



天候悪化に苦戦したが、無事に山頂に到着



大漁祈願で船のプロペラが奉納されていた

下山中、避難小屋を少し過ぎたあたりから、徐々にガスがとれてきました。相変わらずの強風でしたが、これは期待できると思い、一瞬、山頂に上り返そうかとも考えましたが、これもまた登山と思い、そのままのんびりと下山することにしました。

但し、山の神様は遠路訪れた登山者を見捨てはしませんでした。なんと、一瞬にしてガスは晴れ、神々しい利尻山を見せてくれました。海に目を向けると眼下には鴛泊港や利尻の街並みが、またその向こうには礼文島や稚内方面も見えます。

美しい風景を見ながらの下山は、テンションも上がり疲れも吹き飛んでいきます。やはり登山は美しい景色が最高のご褒美となるのは間違いありません。



斜面のガスが一気に晴れてきた



この景色はやばい、さすが洋上の単独峰



海を隔て礼文島も見えます



利尻山が美しすぎる、これが見れて大満足



昨日登ったベシ岬と鵜泊港



登山口には靴洗い場、素晴らしい

13時、無事に登山口に到着、宿に送迎のお願いの電話をすると、宿の方から「下山早かったね～、今、車が空港の迎えなどで出払ってるから、1時間半後くらいになるけどお待ちいただけますか？」と言われたので、「歩き足りないので、宿まで歩いて帰ります。」と即答したのは言うまでもない。振り返る度に美しい利尻山に利尻の街並みと最果ての海、そして美味しい食事、「来てよかった。」この一言に尽きる素晴らしい山行であった。